

2. 概要

(平成18年10月26日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
能登北部	1,130	83,212	7.1%	73.6	6	0	0	0
能登中部	848	144,367	12.3%	170.3	13	0	0	0
石川中央	1,432	709,480	60.4%	495.4	63	(1)	4	4
南加賀	776	236,935	20.2%	305.4	24	0	1	1
計	4,185	1,173,994	100%	280.5	106	(1)	5	5

注1)人口・面積:H17.10.1現在(H18年版石川県市町勢要覧)

注2)「今回推薦病院数」欄は地域がん診療連携拠点病院を都道府県がん診療連携拠点病院へ指定変更する場合には()書きで、指定更新の場合には< >書きで、内数を示し、計には計上しない。

注3)石川中央医療圏については、既指定の1病院に代えて、新たに4病院(うち1つは県拠点)を推薦するものである。

がん診療連携拠点病院の推薦について

1 石川県がん診療連携拠点病院について

本県の総合的ながん対策と、高度で専門的ながん医療提供体制の充実強化を図る観点から、金沢大学医学部附属病院を推薦する。

(推薦の理由)

- ① 高度・専門的ながん治療の実施
 - ・ 特定機能病院としての高度で専門的ながん治療の提供
 - ・ がん高度先進治療センターによる高度先進医療の提供
 - ・ 我が国に多いがん以外のがん（膵がん、食道がん、小児がんなど）も含め、がん全般を専門とした治療の提供
- ② 研修
 - ・ 地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした抗がん剤治療、放射線治療等に関する研修を、「がん高度先進治療センター」が実施
 - ・ がん専門薬剤師養成研修施設の指定
(H18.9.14 現在全国で 26 カ所。県内では金沢大学医学部附属病院のみ。)
- ③ スタッフの充実
 - ・ 日本臨床腫瘍学会認定指導医 8 名 (全国 1,497 名 石川県 23 名)
 - ・ 日本癌治療学会臨床試験登録医 2 名 (全国 1,023 名 石川県 5 名)
 - ・ がん性疼痛看護認定看護師 1 名 (全国 224 名 石川県 3 名)
 - ・ がん専門認定薬剤師 1 名 (全国 41 名 石川県 1 名)
- ④ 研究
 - ・ 治験・臨床試験の実施
 - ・ 金沢大学がん研究所と連携した高度先進がん治療の開発、推進

2 地域がん診療連携拠点病院について

(1) 本県の地域特性

石川県には、4つの医療圏があるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中している。

このため、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部医療圏・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベルや人的スタッフ等は、単独でがん診療の核となるには十分とはいえない状況にある。

(2) 推薦に当たっての本県の方針

地域がん診療連携拠点病院の推薦に当たっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が複数の医療圏のがん診療を担う体制の構築を目指す。

(3) 推薦病院

- ① 南加賀医療圏（新規2病院）→ 小松市民病院、県立中央病院で対応
医療圏内にある小松市民病院が、基本的ながん医療及び高度ながん医療を主として担うとともに、県立中央病院が、特殊ながん医療を含めてカバーする。
小松市民病院では、来年1月からリニアックが稼動し放射線治療を開始することとなっており、これにより、医療圏内で唯一、がん手術、抗がん剤治療及び放射線治療等の組み合わせによるがんの集学的治療が実施できる医療機関となる。
また、県立中央病院の医師が、小松市民病院の患者に対する診療支援のため派遣されることも多く、さらには、両病院が共同で、口腔がん（がん全体の1～2%）の診療計画を作成するなど、両病院は密接に連携を図っている。
- ② 石川中央医療圏（新規2病院）→ 県立中央病院、金沢医療センターで対応
医療圏人口が70万人を超える人口集中地域であることから、基本的ながん医療及び高度ながん医療を県立中央病院と金沢医療センターが共同で担う。
- ③ 能登中部医療圏、能登北部医療圏（新規2病院）
→ 県立中央病院、金沢医科大学病院で対応
基本的ながん医療及び高度ながん医療を、能登中部医療圏については金沢医科大学病院が主として担うとともに県立中央病院がカバーし、能登北部医療圏については県立中央病院が主として担うとともに金沢医科大学病院がカバーする。
両病院と能登地区の2つの医療圏とは高速交通網で繋がっており、金沢医科大学病院には能登中部医療圏からの患者が比較的多く、県立中央病院には能登北部医療圏からの患者が比較的多い。
また、県立中央病院は、能登地区の医療機関との間で患者の紹介・逆紹介といった連携が進んでいるほか、現在、地域連携クリティカルパスの整備に向けた準備を進めている。

3 県立中央病院と金沢大学医学部附属病院の役割分担

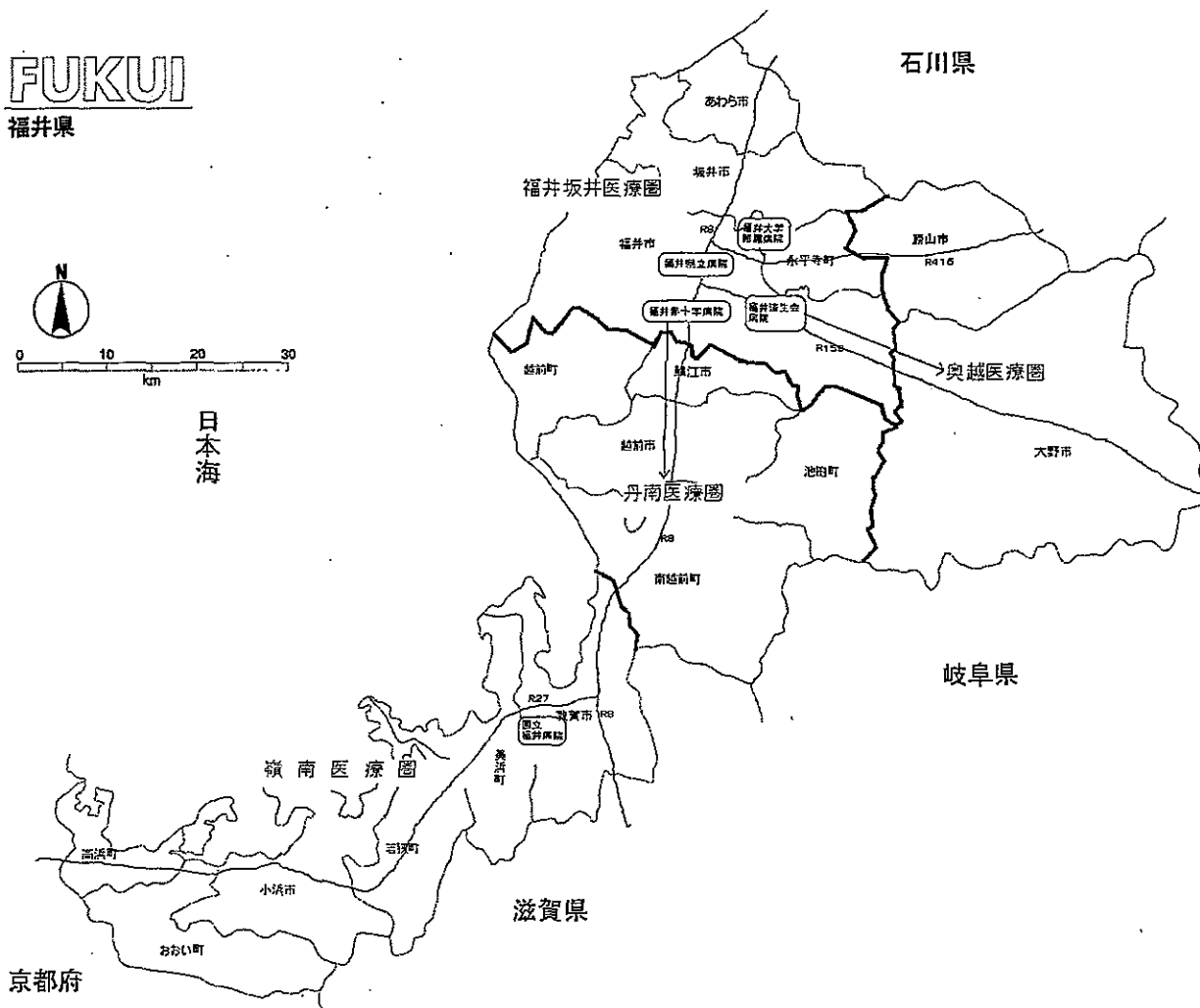
金沢大学医学部附属病院は、特定機能病院として、がん高度先進医療センター内に抗がん剤治療や放射線治療などの専門部署を置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした抗がん剤治療、放射線治療等に関する研修を行う。さらに、がん専門薬剤師研修指定病院にも指定されており、地域がん診療連携拠点病院等のコメディカルスタッフを対象としたがんの専門知識、技術の習得のための研修や情報提供を通じて地域連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、大腸がんでは、国立がんセンターを中心として行われている厚生労働省がん研究に参加するなど、国立がんセンターとのつながりも深い。また、県内の病院に手術、治療のため多数の医師を派遣（H17：162例）し積極的に診療支援を行っているほか、今後、県内各地域のかかりつけ医や一般病院の医師に対する研修を積極的に実施する計画を進めている。

さらに、現在、能登地区の一般病院等との間で地域連携クリティカルパスの整備に着手しており、こうした取り組みを県内全域に広げることで、地域連携クリティカルパスの普及を中心となって進める。こうした活動により、県立中央病院は、県内すべての地域における拠点病院としての役割を果たす。

福井県 2次医療圏の概要

1. 圏域図



2. 概要

(平成18年9月1日現在)

医療圏名	面積(k m ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
福井・坂井	957.41	412,775	50.4	431.1	42	1	2 (1)	2
奥越	1,125.98	64,273	7.8	57.1	7	1	1<1>	1
丹南	1,006.97	193,686	23.7	192.3	22	1	1<1>	1
嶺南	1,098.88	148,165	18.1	134.8	13	0	1	1
計	4,189.24	818,899	100.0	195.5	84	3	5 (1) <2>	5

※面積は、平成17年10月1日現在(国土地理院)

※人口は、平成18年8月1日現在(推計)

がん診療連携拠点病院推薦意見書

福井県

1 がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

本県は、2000年の都道府県別生命表によれば、男女とも平均寿命が全国第2位の長寿県であり、かつ健康寿命も全国上位の健康長寿県です。この「健康長寿ふくい」を確固たるものにし、「健康長寿世界一」の達成を図るため、各種施策を積極的に推進していくこととしております。

しかし、本県のがんによる死亡は、昭和55年以降、死因の第1位を占めており、がんによる死亡率が死因全体の3割を超えていることから、今後さらに「健康長寿」を推進するためには、がん対策の推進が喫緊の課題となっています。そのため、がん対策を知事のマニフェストに掲げ、がん検診受診率の向上を図るなど、重点的な対策を進めております。

その一環として、本県におけるがん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つの二次医療圏（※）ごとに1カ所、また、都道府県がん診療連携拠点病院を1カ所整備することとしました。

なお、地域がん診療連携拠点病院として、指定要件を満たす病院がその医療圏内にない場合においては、他の医療圏と等しく質の高いがん医療を提供するために、隣接する医療圏内で指定を希望する病院のうち、地理的に比較的近くかつ、病診（病）連携が行われている等地域的につながりの深い病院を1カ所整備することとしております。

本県においては、4つある二次医療圏のうち、3つにそれぞれ、福井県立病院、福井済生会病院、福井赤十字病院が、平成15年度にがん診療拠点病院として指定されております。

今回、都道府県がん診療連携拠点病院の新規指定および未整備医療圏（嶺南医療圏）の地域がん診療連携拠点病院の新規指定と併せて、既指定の二次医療圏における地域がん診療連携拠点病院の更新申請も行いたいと考えております。

※本県における二次医療圏：福井・坂井医療圏、奥越医療圏、丹南医療圏、嶺南医療圏

○既指定の病院

福井・坂井医療圏…福井県立病院
奥越医療圏 …福井済生会病院
丹南医療圏 …福井赤十字病院

2 都道府県がん診療連携拠点病院について

<福井県立病院>

福井県立病院は、昭和25年4月に設立後、県全域の医療を支える唯一の県立病院として整備されてきました。

当病院は、地域がん診療拠点病院の指定（平成15年8月26日）を受けることより、県内のがん治療の中核を担う病院として体制づくりを進め、他の主要病院と比較して、年間のがん新入院患者数（3,409人）が最も多く、これまで、県内のがん治療をリードしてきました。

また、がん治療の中核をなす病院として、県内の病院としては、唯一全国がんセンター協議会に加盟（平成3年4月）し、これまで全国の加盟病院とともにがんに関する調査・研究を実施しており、全国のがんに関する情報収集等連携を図り、がんの予防、治療、研

究に力を注いでおります。

さらに、本県のがん登録については、全国的に優れた登録精度（DCO率 5%）を維持し、国内で唯一、がん登録が法律で義務付けられている米国並の登録精度となっております。

この県がん登録に、昭和 60 年の運用開始当初から福井県立病院の医師が大きく寄与しており、現在も積極的に運営に関わっていることから、県がん登録の件数が最も多く、病院内でのがん登録体制が最も整い、院内がん登録の精度も高く維持されております。

加えて、福井県立病院の敷地内に陽子線がん治療施設を併設（平成 22 年 3 月治療開始予定）し、がん治療の拠点として整備が進められており、今後とも県全体のがん治療について中核的役割を果たすことが期待できることから、福井県立病院が最も都道府県がん診療連携拠点病院に最もふさわしいと考え、推薦します。

3 地域がん診療連携拠点病院について

○福井・坂井医療圏

<福井大学附属病院>

福井・坂井医療圏は、県都福井市を含む 3 市 1 町、圏域人口 412,775 人の地域であり、県全体の 5 割の人口が集中した地域です。

福井大学附属病院は、昭和 58 年 10 月に福井医科大学の附属病院として開院され、以来、福井・坂井医療圏内において、かかりつけ医との連携のもと、地域医療の中核としての役割を果たしてきております。平成 15 年 10 月には、福井大学と統合し、さらに平成 16 年 4 月から国立大学法人として再スタートをしております。

平成 6 年 12 月には、特定機能病院として承認され、ISO9001 を国立大学病院で 2 番目に早く取得し、安全重視の高評価を受けるとともに、最新の研究成果に基づく、安全で質の高い医療を提供する機能を有し、地域のがん医療に大きく貢献しています。

福井大学附属病院の年間のがん新入院患者数は、既に指定されている済生会病院（奥越医療圏）、福井赤十字病院（丹南医療圏）と同等またはそれ以上（2,293 人）であり、先端医療画像センター（PET 装置）を整備し、副作用の少ない分子標的治療や進行がんの温熱化学療法等の高度ながん治療を行うなど、がん治療についての多くの実績を有しています。

また、既に指定されている福井県立病院とともに、これまで、福井・坂井地域の中核病院として、地域のがん治療を分担し実施してきたことから、本県のがん医療をさらに向上するためには、福井大学附属病院を福井・坂井医療圏の地域がん診療連携拠点病院に指定し、他の地域がん診療連携拠点病院と連携して、さらに地域のがん医療の充実を図っていくことが不可欠であります。

○奥越医療圏

<福井済生会病院>

奥越医療圏は 2 市からなり、圏域人口 64,273 人の地域で、本県の東部に位置し、国道 158 号や J R 越美北線、越前鉄道が東西に伸びており、県都福井市がある福井・坂井医療圏の東に隣接しております。

当医療圏内には、組合立、個人等の病院がありますが、地域がん診療連携拠点病院として、指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがありません。

そのため、当該医療圏の西に隣接する医療圏（福井・坂井医療圏）内でこの地域に距離的に最も近く、国道 158 号や幹線道路（県道）、J R 等による交通のアクセスに利便性があ

り、奥越医療圏からの患者の受療が多いことなどを考慮し、福井済生会病院が地域がん診療連携拠点病院として指定（平成15年8月26日）を受けております。

今回は、新指針に基づき、当該病院の更新申請を行うものです。

○丹南医療圏

<福井赤十字病院>

丹南医療圏は2市3町からなり、圏域人口193,686人の地域で、本県の中央部に位置し、県都福井市がある福井・坂井医療圏の南に隣接しております。JR北陸線や高速道路、国道8号、幹線道路（県道）が南北に縦断しており、福井・坂井医療圏との人口交流が盛んです。

当医療圏内には、組合立、個人等の病院がありますが、地域がん診療連携拠点病院として、指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがありません。

そのため、北に隣接する医療圏（福井・坂井医療圏）内でこの地域に距離的に最も近く、道路交通等アクセスの利便性があり、丹南医療圏からの患者の受療が多いことなどを考慮し、福井赤十字病院が地域がん診療連携拠点病院として指定（平成15年8月26日）を受けております。

今回は、新指針に基づき、当該病院の更新申請を行うものです。

○嶺南医療圏

<国立病院機構福井病院>

嶺南医療圏は、2市4町からなり、圏域人口193,686人の地域で本県の南に位置しております。古くは、若狭地域として、京阪神とのつながりも深く、独自の文化を維持しております。圏域内をJR小浜線や国道27号が縦断し、敦賀市を分岐点として、JR北陸線や北陸自動車道、国道8号等の幹線道路により、嶺北地方（福井・坂井、丹南、奥越医療圏）と接続しています。

これまで、当医療圏には、がん医療の中核をなす病院が整備されていなかったことから、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けておりませんでした。

しかし、当医療圏においても、他の医療圏と等しく質の高いがん医療を提供する必要があり、今回、地域がん診療連携拠点病院としての整備が図られ、指定要件を満たすにいたったことから、指定申請を行いたいと考えております。

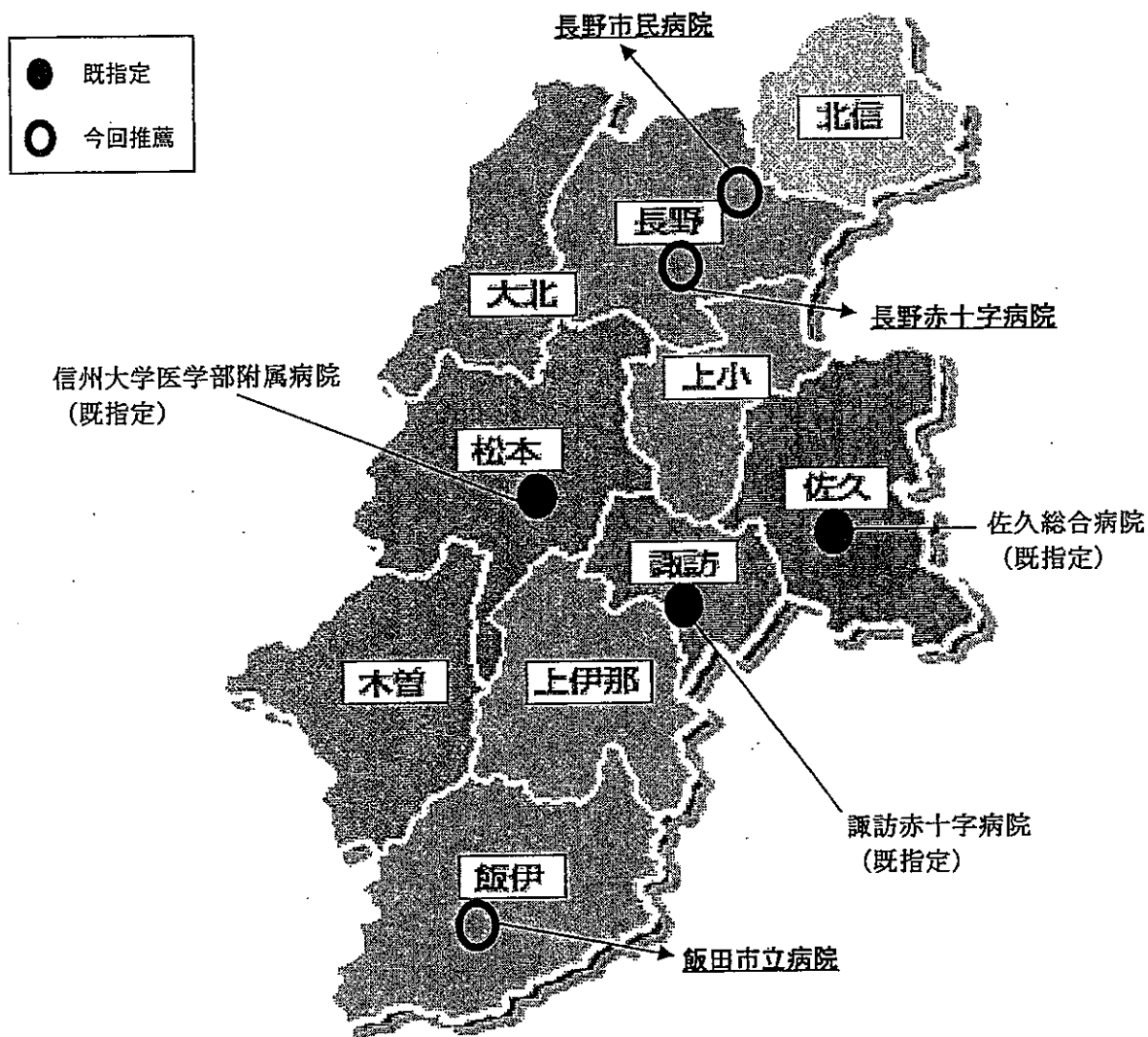
国立病院機構福井病院は、平成15年に旧国立療養所等の2医療機関が統合し、総合病院として整備されて以来、嶺南地域の中核病院として、初期治療から高度医療まで、幅広い医療を提供し、国が力を入れて行うべき政策医療（がん、呼吸器疾患、エイズ他）を対象に高度総合医療を実施する役割を担い、地域のかかりつけ医との連携を図り、地域完結型の医療を行っています。

特に、消化器（食道、胃）がんについては、優れた診療実績を有し、隣県の滋賀県の北部地域や全国から患者が来院するなど、高い評価を受けております。

加えて、医療懇話会や臨床フォーラム等を定期的に開催し、中心的役割を担い、地域との連携体制が整備されていることから、嶺南医療圏における地域がん診療連携拠点病院として、国立病院機構福井病院を推薦したいと考えております。

長野県 2次医療圏の概要

1. 圏域図



2. 概要

(平成18年3月1日現在)

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院数	今回推薦病院数	計
佐久	1,571.62	214,200	9.8	136.3	14	1		1
上小	905.34	207,035	9.4	228.7	18			0
諏訪	715.40	210,346	9.6	294.0	13	1		1
上伊那	1,348.28	192,804	8.8	143.0	13			0
飯伊	1,929.19	174,983	8.0	90.7	11		1	1
木曾	1,546.26	33,632	1.5	21.8	1			0
松本	1,869.14	430,987	19.7	230.6	27	1		1
大北	1,102.50	66,068	3.0	59.9	2			0
長野	1,565.42	565,012	25.7	360.9	37		2	2
北信	1,009.08	98,090	4.5	97.2	3			0
計	13,562.23	2,193,157	100.0	161.7	139	3	3	6

注1)「人口割合」欄は、県全体の人口に対する圏域ごとの割合を記入すること。

注2)「人口密度」欄は、各医療圏ごとに、人口/面積(km²) (小数点以下第2位四捨五入)により算出した数値を記入すること。

注3)「病院数」欄は、拠点病院以外の病院も含めた数を記入すること。

【長野医療圏から推薦する2病院】

1 推薦する病院

長野赤十字病院、長野市民病院

2 複数を推薦する理由

従前から連携関係にあり、県内でも高い水準と豊富な診療実績を有する2病院が指定を受けることにより、県下で最大の人口を有する長野医療圏に加えて、当面、拠点病院の指定が見込めない、隣接する北信医療圏に対象地域を広げて、それぞれの特徴を生かして緊密な連携による相乗的な機能強化により、がん診療の中核を担ってもらう。

(1) 病院の特徴及び機能分担等

	特 徴
長野赤十字病院	<p>スケールメリットを生かした総合力（集学的治療 等）</p> <p>① 724床、医師数122名は県下では信州大学附属病院、佐久総合病院に並ぶ規模を有し、総合力を生かし、我が国に多いがんはもとより、幅広い専門分野の診療が可能である。</p> <p>② 白血病診療の分野では、信大病院及び佐久総合病院とともに長野県の診療を担っている。</p> <p>③ 地域的な分担として北信医療圏も包括</p>
長野市民病院	<p>市立病院としての公的な性格を生かし、特に、終末期医療・緩和医療等の分野での、円滑な地域連携と病診連携</p> <p>① 長野市の「成人病センター」としての機能も期待され設立されたことから、3大疾患の診療に重点を置いている。</p> <p>② 前立腺がんの分野では、いち早く「小線源治療装置」導入して診療実績を積んでいる。</p> <p>③ ホスピスケア病棟をもつ病院との協定によるホスピス提供等、積極的な診療連携を展開している。</p> <p>④ 地域的な分担として北信医療圏も包括</p>